

Pragmatism, Somaesthetics, and Contemporary Art

プラグマティズム 身体感性論 コンテンポラリーアート

講師 リチャード・シュスターマン先生

今回の講演では、シュスターマン先生が企画し、その身体感性論に影響を受けた7人の芸術家（カルステン・ヘラー、タチアナ・トルヴェ、オルラン、パン・ゴンガイ、テクラ・シップホースト、ルカ・デル・バルト、ヤン・トマ）による展示「感性の越境—芸術と生活を通じたプラグマティズムの哲学—」（2011年パリ）における作品を解説しながら、身体感性論と、芸術的实践とがいかに関係しているかについて、お話し頂く予定です。

リチャード・シュスターマン (Richard Shusterman) 先生
フロリダ・アトランティック大学教授。

身体感性論 (somaesthetics) という独自の研究分野を拓き、哲学・美術・教育を横断した研究を組織して国際的に活躍する研究者である。哲学者であると同時に、身体への気づきやパフォーマンスを高めるフェルデンクライス・メソッドの実践家でもある。

主な著作『ポピュラー芸術の美学』『プラグマティズムと哲学の实践』『身体意識 (Body Consciousness)』『身体を通して考える (Thinking through the Body)』など。

日時 6月5日(水) 18:00~19:30

場所 中央棟 第3講義室

連絡先 美術教育研究室(中央棟地下1階)

050-5525-2266